

防災学術連携体が一社化

複合災害に備え活動本格化

土木学会や日本建築学会など自然災害に関わる59学会で構成する「防災学術連携体」が一般社団法人化し、20日に初めての総会を開いた。震災や水災害といった自然災害に加え、自然災害と新型コロナウイルス感染症などの複合災害に備え、活動を本格化する。

20日に開いた総会では、代表理事に和田章東京工業大学名誉教授を選んだ他、理事に田村和夫氏（日本学術会議）と米田雅子氏（同）を、代表幹事に大友康裕氏（日本災害医学会）と米田氏を選任した。

今回の総会を機に、組織を強化する目的で一般社団法人に移行。さらに活動を本格化させていく。具体的には、シンポジウムやWEB研究会などを通じて学会間の連携を促進する。災害発生時などの政府や自治

防災学術連携体は、東日本大震災を契機に、日本学術会議を中心に発

体との連携も強化し、適切な情報の発信に努める。